

## ⑫日本&横浜発祥の地 北方・山手の丘コース ガイド

- ◆催行日 11月25日(水) 集合:10:00 元町・中華街駅元町口を出た右エスカレーター前
- ◆散策コース 元町・中華街駅—機械製氷発祥の地—クリーニング発祥の地—横浜ボーリング発祥の地—アメリカ山公園—ウチキパン—元町公園 (ジェラルルの水屋敷・大正活映撮影所跡・塗装発祥の記念碑・横浜パプテスト神学校発祥の地・ブラフ溝・山手80番遺構・エスマン邸・ベリックホール)—ビール井戸—麒麟麦酒開源記念碑)—妙香寺 (国家君が代発祥の地・日本吹奏楽発祥の地)—山手公園 (君が代が初めて演奏された地・横浜テニス発祥の地・初の西洋庭園の地)—カトリック山手教会 (解散)—バス停山手駅 (赤字:トイレの場所)
- OP: 山手イタリア山庭園 (外交官の家・ブラフ18番館)—大丸谷坂—地蔵尊—JR石川駅
- 中川駅 9:03 発—横浜駅 9:29 着 9:44 発みなとみらい線元町・中華街駅 9:52 着
- センター北駅 9:08 発—日吉駅 9:20 着 9:31 発みなとみらい線元町・中華街駅 9:52 着

クリーニング発祥の地    横浜ボーリング発祥の地    ジェラルルの水屋敷    ビール井戸

日本最初のビール工場  
麒麟麦酒開源記念碑  
国家君が代発祥の地  
日本吹奏楽発祥の地

機械製氷発祥の地  
ウチキパン  
大正活映撮影所跡  
塗装発祥の記念碑  
横浜パプテスト神学校発祥

山手80番遺構  
ブラフ溝  
エリスマン邸  
ベリックホール  
バス停  
外交官の家・ブラフ18  
初の西洋庭園の地

赤字は、日本発祥の地です    テニス発祥の地    君が代が初めて演奏された地



元町・中華街駅の「元町口」改札を出て右に曲がるとすぐの右手に「機械製氷発祥の地跡」の表示板があります。その前を進み信号を渡り右の坂を上ります。左手にカーブした左手に「クリーニング発祥の地」の大きな石碑があります。その左わきの階段を降り道なりに行きます。右手



にピンをかたどった「横浜ボーリング発祥の地」の石碑があります。「港の見える丘公園」に向かわないでUターン。駅に戻ります。エレベーターで屋に上がり「アメリカ山公園」を通り抜け、門を出て右の階段を下ります。下り切った右手に「ウチ



キパン」の看板が見えます。覗いた後戻って十字路を右に曲がり 1 つ目の四つ角を左に進みます。左手に「元町公園案内図」隣のポールの下に「山手の湧水」のプレートそして「ジェラルム水屋敷地下貯水槽」があります。階段を上った左手のコーナーにジェラルムの水屋敷・レンガ工場が詳しく説明されたプレートがある



るので一読ください。

道に戻って左に進み突き進むと「元町公園」です。右の門柱「ジェラルムの水屋敷湧き水の経路」のプレートを読んで公園内に入り直ぐに右折。階段を上り右折し「大正活映撮影所跡」の



石碑を見て、戻り大きな石塔「塗装発祥の記念碑」の前を通り左の階段を下り、右の階段を上ると正面に「ジェラルムの瓦とレンガ」「ジェラルムの水屋敷地下水槽」の表示板があります。右に出て「元町公園図」の立て札の右の階段を上りさらに右へ進み階段の道を左に上ります。階段の脇の水が流れる溝が「ブラフ溝」です。更に上ると「横浜パプテスト神学校発祥の地」の表示



板、階段を上り直ぐの左に入ると「ブラフ溝」の石碑があります。それを背にして坂を下りると突き当たりが「山手 80 番遺構」、右の壁に埋め込まれた「ジェラルムの瓦」を見て先を進むと「山手 80 番遺構」の見取図です。道なりに進むと左に「エリスマン邸」右の角に「ベーリックホール」です。

十字路の真ん中の坂を下り突き当たりの信号を渡り左に少し進んだところに「ビール井戸」、振り返って進み小学校の端に「麒麟園公園」。入って右手に「日本最初のビール工場の石碑」、左手に大きな「麒麟麦酒開源記念碑」が立っています。公園を左に出て広い通りを左折、坂を下ります。「麒麟園入り口」の交差点を右折し直進。1 つ目の信号を渡ってすぐの右に君が代由緒地と書いた大きな石が目につきます。「妙香寺」です。階段を上り山門をくぐった左手に「国家君が代発祥の地」「日本吹奏楽発祥の地」の石碑



が立っています。7 代目橘屋円蔵、須田佳代子のお墓を見て、本堂左脇の階段を上り、2 つ目の階段を上ったら右折、1 本目を左折。そのまま進み、一番はずれの開いた右の鉄柵から外に出ます。左折し直ぐ



右折し進み突き当たりの右の階段を上ると、そこは日本最初の洋式公園の「山手公園」。君が代が初めて演奏された白い「あずまや」を見て、右に行くと「旧山手 68 番館」、その先にテニスコート、そこを左手に進むと左手に「日本最初の洋式公園」の石柱、「横浜山手テニス発祥記念館」その先に「日本最初のヒマラヤスギ」、その先右に「横浜テニス発祥の地」の石碑があります。公園を出て左折、道なりに進みバス通りの右手のカトリック山手教会で解散。バス停：山手駅



OP：バス通りの信号を渡り左折。坂を下り上り途中の右の「石川町駅」の表示板を右折、次の二股を右に進み「山手イタリア山庭園」に入り「外交官の家」、「ブラフ 18 番館」を見学して右の階段を下り道に出たら左折。坂を下る途中の右手に「大丸谷坂」の石柱と「地藏尊」、更に下り十字路を左折すると「石川町駅」に到着です。

## ⑫日本&横浜発祥の地 北方・山手の丘コースめぐり 資料

### 【横浜に日本発祥の地が多い理由】

横浜は 1859 年に近代日本で最初に海外に門戸を開いて以来西洋文化の流入拠点となり、来日した外国人によって沢山の「はじめて」がもたらされました。つまり、幕末から明治にかけての開国・開港という出来事が大きな契機となり「横浜に日本発祥」のものが多く生まれたのです。

中区には日本発祥が 24、横浜発祥が 5 あります。今回歩くコースには、日本発祥が 12、横浜発祥が 2 です。当然のことでしょうが、日本人が立ちあげたのは「クリーニング」だけで、それ以外は外国人が立ち上げています。

### <日本発祥の地>

#### 1. 機械製氷発祥の地

横浜は開港直後からボストン氷と呼ばれるアメリカ産の天然氷が輸入されていました。しかしスエズ運河のない時代なので半年かかって運ばれてくるので、ビール箱大のものが金三両もしたそうです。日本では、中川嘉兵衛が 1869 年（明治 2 年）に函館五稜郭の天然氷を商品化することに成功しました。

日本の機械製氷の歴史は、1870 年（明治 3 年）に現在の東京大学で機械工学の講義を担当していた宇都宮教授が、慶応義塾の塾生たちの願いをいれて、福井藩主松平春嶽公が所有していた外国製の小型製氷機を使用し、チフスを発病し高熱で病床に臥している福沢諭吉の解熱のために少量の氷を製造したことが始まりです。その甲斐あって、諭吉は無事に回復したという

記録にある最も古い製氷工場は、1879 年（明治 12 年）に英国人アルバート・ウォーターズが設立したジャパン・アイス・カンパニーである。



その後、経営母体を何度も代えながら、100 年以上にわたって運営されました。創業以来の製氷工場は、1923 年に発生した関東大震災で崩壊してしまいましたが、1924 年に再建。その後、99 年まで、ニチレイの子会社だった旧・神奈川日冷の山手工場として稼働してきました。現在、この製氷工場は解体さ

れ、跡地は結婚式場「山手迎賓館」に生まれ変わりました。

#### 2. クリーニング発祥の地

1854（安政元）年に日米和親条約が結ばれました。交渉の舞台となった横浜で乗組員の衣類の洗濯が付近の人に依頼されました。人々は従来の洗濯法通り、灰汁（あく）をつけて白い軍服を洗ったところ、汚れは取れたが全体に薄黒くなってしまった。アメリカ側は、びっくりして「石鹼を次回持参する」と約して帰ったという。

こうして洋服を洗濯する技術の必要性が、開国以後に発生。1859（安政 6）年に青木屋忠七なる山梨県出身の人物が横浜本町 1 丁目で 108 坪の店を開業したのが初めとされています。1897（明治 30）年ごろに、横浜のクリーニング業者を記載した「横浜有名西洋洗濯鏡」なる一種の“番付表”を見ると当時の業者がわかる。この中で、今日までクリーニング店を継続し

ている家系が一つだけ判明している。番付右上、前頭とある宮島濱次郎氏の店である。



宮島クリーニング店



番付表



### 3. 食パン発祥地ウチキパン

外国人居留地でイギリス人のロバート・クラークさんが商売していた船員向けのパン屋『ヨコハマベーカリー』で、パン作りを10年ほど修行した打木彦太郎が1888年（明治21年）に今の場所に『ヨコハマベーカリー宇千喜商店』を開店。イギリスパンを「ゴールデン食麩」という名前で本格的な食パンとして一般家庭向けに販売したのが、日本の「食パン」の始まりである。



美味しさのヒミツは、イースト菌を使わずに「ホップ種」で生地を発酵させている事。こうすると出来上がりに時間がかかるが、その分「旨みエキス」がタツプり滲み出てくるのだとか。酵母を使ったのは、横浜が国産ビールの発祥の地ということでホップが手に入りやすかったためである。

### 4. 元町公園

元町公園には、日本で最初の船舶給水業・西洋瓦の製造・塗装発祥の地の3ヶ所がある。

#### ●給水業発祥の地（ジェラルルの水屋敷跡）

山下居留地に外国人が居住するようになると、居留地には生活に必要な銀行、レストラン、パン屋、八百屋、酒屋など商品を取り扱う店が増えていった。だが、山下居留地では、最も必要な水が手に入りにくかった。井戸を掘っても水は塩分を含んでいて飲み水には適さなかった。飲料水は、日本人の水屋が売りにくるのを待たなければ買えない貴重なものだった。

フランス人貿易商、アルフレッド・ジェラルルはそこに目を付け1868（明治元）年、中村字池ノ谷戸（現在の横浜市中区打越）に良質な湧水の水源を確保。そこから山下居留地168番のジェラルル商会までパイプを通して、山下居留地を対象に給水を開始したのです。

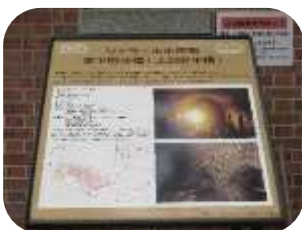
更に1870（明治3）年までには山手77番、78番に新たな水源を得て、堀川（現在橋梁の上を首都高速が走る）までパイプを通し、堀川の川岸から小舟に積み替えて、横浜港に寄港している船舶に給水を行った。

ジェラルル水屋敷は、周囲の山からの湧水を上部貯留槽（現在の元町公園プールの入口地下）に一分間に50リットル流れ込み、水位が1mに達すると下部貯水槽（ジェラルル水屋敷）に流出するようになっていた。ここで集水と異物の沈殿除去が行われ、濾過された良水が供給できたと思われる。明治時代、船乗りたちの間では、『ヨコハマの水はインド洋に行っても腐らない』という評判を呼んでいたという。

#### ●西洋瓦製造発祥の地（ジェラルル瓦）

また、ジェラルルは洋風建築に使う瓦の需要を見越して水屋敷の上でフランス型瓦の製造を始めた。わが国で初めての土練機や製瓦機を使った近代設備を持った製瓦工場である。

工場には、蒸気機関で動くベルト付の機械類が並んでいる。瓦は職人が一枚ずつ手作りしていた時代に、ジェラルルの工場では、すでに機械による大量生産を行っていたのである。現存する瓦では、1873（明治6）年製の刻印があるものが最も古い。更衣室などが入るプール管理棟には、ジェラルルが製造した瓦が使われている。日本の一般の瓦業者が近代設備を導入するのは、遅れること50年経ってからである。



水屋敷



下部水槽



瓦・レンガの種類



瓦工場

## ●塗装発祥の地

日本人で初めてペンキ塗装を手がけたのは、江戸の渋塗職であった町田辰五郎。嘉永6年（1853）ペリーと幕府側役人が会見を行う「交易談判所」が神奈川宿に急造されたが、町田はこれに洋風の塗装を命じられ、米艦の援助の下でやり遂げたという言い伝えがあり、これが日本におけるペンキ塗装の始まりとされる。

何故、この地が塗装発祥の地かという横浜のこの一帯は開港によって外国人の居留地となり、西洋人の建物にペンキ塗装を行う習慣によって横浜に技術が流入し、ここから全国へ広まっていったからだという。



## 4. キリン園公園

キリン園公園には、日本の国産ビール産業発祥と麒麟麦酒開源記念碑、ビール井戸の3ヶ所がある。

### ●日本の国産ビール産業発祥の地

山手居留地でビール醸造所がつけられたのは1869（明治2）年でした。この地は、1870年（明治3年）、米国人ウィリアム・コーブランドが設立した「スプリング・バレー・ブルワリー」というビール醸造所があった。コーブランドは日本で初めて継続的にビールの醸造・販売を行い「日本のビール産業の祖」といわれている。つまり、キリン園公園は日本の国産ビール産業発祥の地であり「日本最初の麦酒工場」なのです。

その後、麒麟麦酒株式会社（現在のキリン株式会社）がコーブランドのビール醸造所を引き継ぎ、1888年（明治21年）に「麒麟ビール」が発売されたのです。1907年（明治40年）には麒麟麦酒株式会社が設立され、1923年（大正12年）の関東大震災までこの地でビール醸造を行っていました。その証が、「麒麟麦酒開源記念碑」である。

但し、日本人によって初めて醸造されたのは、1869年の3年後の大阪である。綿問屋や清酒の醸造を営んでいた天満の澁谷庄三郎が引継ぎ、明治五年（1872年）三月から、醸造所を設けビールの製造・販売を開始した。銘柄は「澁谷ビール」といい、犬のマークの付いたラベルであった。年間約三二～四五キロリットルを製造し、中之島近辺や川口の民留地の外国人らに販売した。

### ●ビール井戸

キリン園公園に隣接する横浜市立北方小学校の校庭に、かつて良質な湧水がたたえた池があった。この井戸は、池からビール醸造のための水を汲んだと言われている。



麒麟麦酒開源記念碑

日本最初の麦酒工場

ビール井戸

スプリング・バレー・ブルワリー

## 6. 妙香寺

妙香寺には、国歌君が代の由緒地と吹奏楽団設立の2ヶ所がある

### ●国歌君が代の由緒地(発祥地)

「君が代」は、日本の国歌ですが、作曲は英国公使館護衛の任務を帯び、横浜に駐屯していた軍楽長で外国人ジョン・ウィリアム・フェントンなのである。彼は、横浜の妙香寺の境内で、薩摩藩に属する青年達約30人に音楽や楽器の演奏を教えていた。フェントンが1869年（明治2年）に、日本には儀礼用の国歌はあるのかと問い、鹿児島藩が薩摩琵琶歌の中か



ら「君が代」を選んで、フェントンに作曲を依頼したのだった。曲は1870年（明治3年）9月、明治天皇の前で初めて演奏された。しかし、このフェントン作曲の「君が代」は、古今和歌集・「詠み人知らず」がつかわれたので欧州風の曲調では歌いにくく、1876年（明治9年）を最後に、現在のものとなった。



現在の、独特な曲調を持った「君が代」を作ったのは宮内庁雅楽局の林広守。彼は明治13年、楽人を代表して国家制定委員となり、同年10月に現在の「君が代」の楽譜案を提出し、同年の天長節で初めて演奏を行った。国歌発祥の記念碑は、軍楽生達が寄宿していたことから妙香寺の境内に建てられたのである。

### ●吹奏楽団創立

妙香寺に英国陸軍の軍楽隊指導者であるジョン・ウィリアム・フェントンの指導を受けるためにサツマバンドが合宿していました。サツマバンドは明治2年に軍兵の心を和らげ、士気を高揚させる役割を期待されて、薩摩藩主・島津久光によって結成されました。サツマバンドは初め譜面読み、鼓隊の訓練など楽器ぬきの練習であったが、翌明治3年、フェントンが注文していた楽器がイギリスから届くと、隊員たちはクラリネット、コルネット、トロンボーン、ピッコロなどを手に練習をはじめたのです。彼らが最初に演奏した吹奏楽曲は、イギリス国歌であったといわれている。これが、日本の吹奏楽のはじまりで、また、日本における洋楽器輸入の最初でもあった。



## 8. 山手公園

山手公園は、日本最初の西洋式公園、日本庭球発祥の地、君が代が初めて演奏された地がある。

### ●日本最初の西洋式公園

山手公園は、1870年（明治3年）に横浜居留地外国人のレクリエーション施設として造られた日本最初の西洋式公園である。

山手公園建設のきっかけは、1842年（文久2年）に発生した生麦事件である。この事件は横浜居留地の外国人たちを震撼させ、安心してピクニックや馬の遠乗りが楽しめる場所が欲しいと、米・英・仏の3か国の公使が、山手に遊歩道と公園を設置するよう江戸幕府に要求したのです。当時の日本では散策のための道をつくるなどの発想はなく、「公園」という概念など持ち合わせてもいなかった。各国の領事たちは、何度も幕府に公園を設置することを要求した。その結果、外国公使団は、幕府から遊歩道とともに公園建設を許可されることになった。

### ●日本庭球発祥の地

山手公園開設とともに公園管理団体が組織されたが、日本政府への賃借料が滞ることになる。イギリス公使館のアーネスト・サトウが、明治4年に着任した神奈川県令・睦奥宗光（むつむねみつ）と交渉をした。そのさなかに公園内の一部をテニスコートにしてクラブに貸し出すという案が浮上。当時、イギリスで流行していたローンテニスを横浜居留地に導入したのである。「レディズ・ローン・テニス・アンド・クローケー・クラブ」が結成され、日本初のクレーコート5面とクラブハウスが誕生した。そのため、山手公園は日本における庭球発祥の地とされており、開設されたテニスコートは、ほとんど往時の土地形状のままに残されている。

園内の「テニス発祥記念館」は、横浜インターナショナルテニスクラブ創立120周年を記念して建てられたもので、テニスの歴史パネルなどが展示されている。

## ●君が代が初めて演奏された地

1870年（明治3年）8月12日、横浜の山手公園音楽堂でフェントン指揮、薩摩バンドによる初めての演奏会で、初代礼式曲「君が代」は演奏された。



西洋式公園の碑



日本庭球発祥の碑



当時皇太子夫妻



演奏された地

## 【横浜発祥の地】

### ・ボーリング発祥の地

1861年（文久元年）6月22日、日本で最初にボーリングが伝わったのは長崎だった。当時長崎で発行された社交サロン店主ヘンリーギブソンが新装開店を告知した広告に記録が残っている。これが日本で最初のボーリング場です。ボーリング場はスナックバー風の設備も整っていて、外国人たちの社交の場とレクリエーションの場となっていた。現在、これを記念して、6月22日が「ボーリングの日」とされている。



横浜は2番目でボーリング場ができたのは、3年後の1864年（元治元年）。現在、フランス山公園にある「横浜ボーリング発祥の碑」は、平成7年に横浜初として建てられた。

### ・横浜バプテスト神学校発祥の地

1873(明治6)年に アメリカ北部バプテスト(キリスト教プロテスタントの一教派)は、宣教師・ネーサン・ブラウン夫妻を日本に派遣して 宣教活動始める。横浜に日本バプテスト横浜教会を設立、1884(明治17)年には 代官坂東側の山の上に“横浜バプテスト神学校”を創立、牧師・伝道師養成学校、関東学院の源流の一つである。



## 【その他】

### ・大正活映撮影所跡



1920年4月、東洋汽船社長で浅野財閥総帥浅野総一郎の次男、浅野良三が、「大正活動写真株式会社」として横浜市に設立した。本社は山下町に置き、「大活撮影所」は山下町77番地、元町通りに垂直な路地を「ジェラルルの水屋敷」に向かって直進したところにあった。大正活映撮影所は大正9年から大正12年までわずか4年間ほどしか使用されなかったが、作家谷崎潤一郎を脚本家として迎え、財界から資本提供を受けるなど当時としては非常に注目を浴びた撮影所であった。

ハリウッドで修行した監督の栗原トーマスや、すでに人気作家となっていた谷崎潤一郎が脚本を書いたり、近代的な映画製作のはしりだった。日本無声映画史上傑作と呼ばれる「雄呂血」（主演・坂東妻三郎）など30本の映画が製作された。



## ＜横浜市が存続させている建物＞

### ・山手 80 番館跡

明治末ないし大正初期に建てられたモノで、元は 3 階建てでした。煉瓦の壁は鉄の棒で補強され、耐震性を考慮されていたにもかかわらず関東大震災で崩壊もしくは損壊したことから、震災の大きさを今に伝える遺構として残した。

### ・エリスマン邸

大正 14（1925）年から 15（1926）年にかけて建てられました。生糸貿易商社シーベルヘグナー商会の横浜支配人格として活躍した、スイス生まれのフリッツ・エリスマン氏の邸宅だった。1 階には暖炉のある応接室、居間兼食堂、庭を眺めるサンルームなどがある木造 2 階建て、和館付きの白亜の洋館でした。当時の洋館を残す建物として残し。2 階に写真や図面で山手の洋館に関する資料を展示している。

### ・ベーリック・ホール

昭和 5（1930）年にイギリス人貿易商 B.R.ベリック氏の邸宅として建てられた。現存する戦前の山手外国人住宅の中では最大規模の建物で、スパニッシュスタイルを基調とし、多彩な装飾が施されている。内部も、広いリビングルームやパームルームなど、建築学的にも価値のある建物だけである。

### ・外交官の家

明治 43（1910）年に東京渋谷の南平台にニューヨーク総領事などを務めた明治政府の外交官内田定槌氏の邸宅として建てられた。

建物は木造 2 階建てで華やかな装飾が特徴のアメリカン・ヴィクトリアンの影響を色濃く残している。加えて各部屋の家具や装飾にはアール・ヌーボー風の意匠とともに、19 世紀イギリスで展開された美術工芸の影響も見られる。室内は家具や調度類が再現され、当時の外交官の暮らしを体験できるようになっている。

### ・ブラフ 18 番館

ブラフ 18 番館は、関東大震災後に山手町に建てられたオーストラリアの貿易商バウデン氏の住宅だった。建物は木造 2 階建て、1・2 階とも中廊下型の平面構成。館内は震災復興期（大正末期～昭和初期）の外国人住宅の暮らしを再現している。併せて、当時元町で製作されていた横浜家具を修復して展示されている。



写真左上から 80 番館跡、エリスマン邸、ベーリック・ホール、外交官の家、ブラフ 18 番館

### ・大丸谷坂（おおまるだにざか）

古くは「大丸坂」と呼ばれ、明治 17 年(1884)に山手居留地に新設された 26 か町の町名の一つでもあった。かつてこの界隈は大正から昭和初期にかけて「チャブ屋」が軒を連ねたことでも知られる。「チャブ屋」とは簡易食堂を意味する英語の” チョップ・ハウス” が転じたものとされ、ダンスホールと娯館を兼ねたような場所であったが、大丸谷では戦後になると姿を消した。大正 12 年(1923)の関東大震災の時には、この坂から高台に避難する人々が殺到したが、迫る炎の猛威に 27 名の犠牲者を出したとされ、坂の途中に碑文とともに地藏尊が祀られている。見晴らしの良い坂の頂上からは、谷間に延びる坂の様子を一望することができる。

